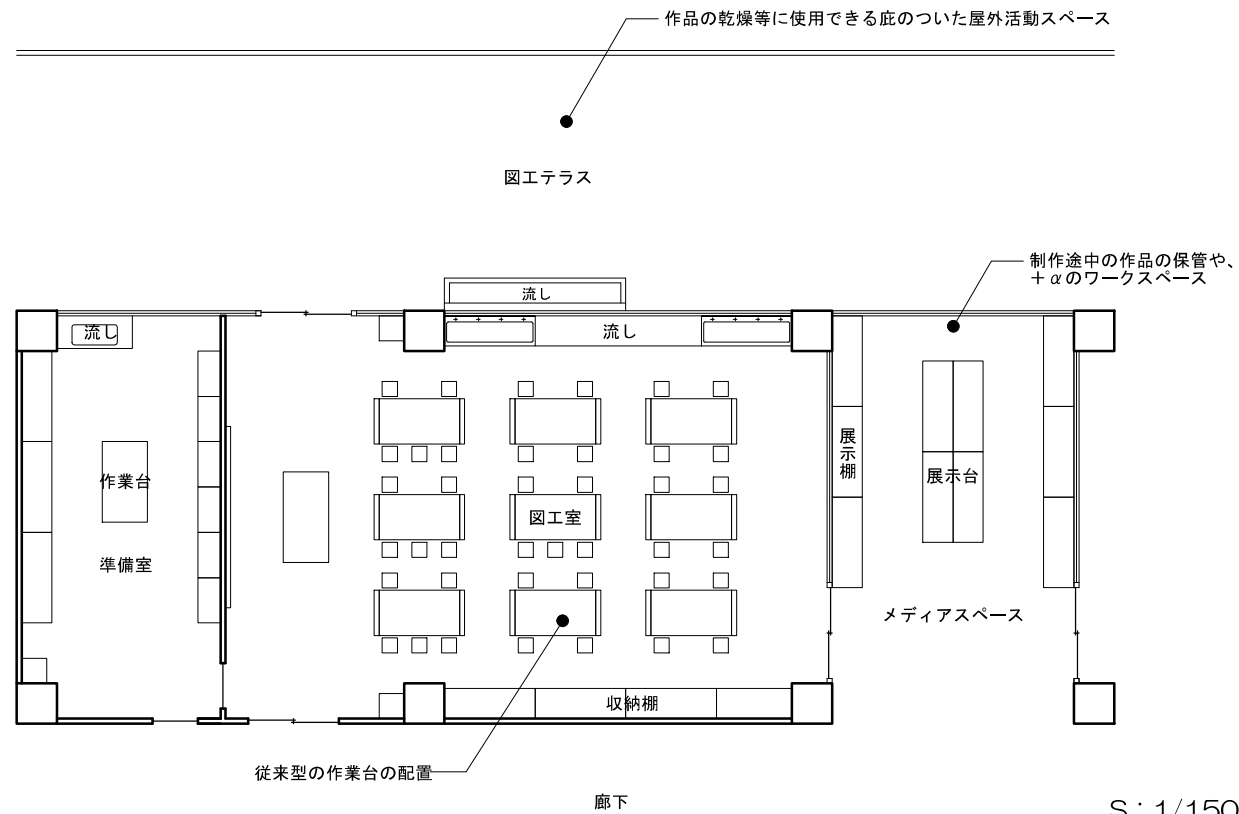


【ヒアリング、ワークショップでの主な意見】

- ・ 図工室は従来通りの仕様がよい。
- ・ 作品を乾かしたりできる屋外スペースが隣接しているといい。
- ・ 制作途中の作品の保管スペースが十分に必要。

- 基本的な考え方
- ・ 創作活動の魅力を引き出すアトリエや工房的な雰囲気をつくる。
 - ・ 創作活動を妨げない環境性能（安全性、光環境）を確保する。
- 図工室まわりの設え
- ・ 自然採光を活用し、創作活動に適した安定した光環境をつくる。
 - ・ 吸音性、遮音性を確保する。
 - ・ 適切な耐衝撃性能を確保し、かつ掃除の行いやすい床仕上げとする。
 - ・ 適切な換気設備を確保し、通風にも配慮することが望ましい。
 - ・ 適切な容量の制作途中の作品の保管スペースを設ける。
 - ・ 適切な広さの準備室を設ける、
 - ・ 作品の乾燥等が行える屋外活動スペースを隣接または近接させる。

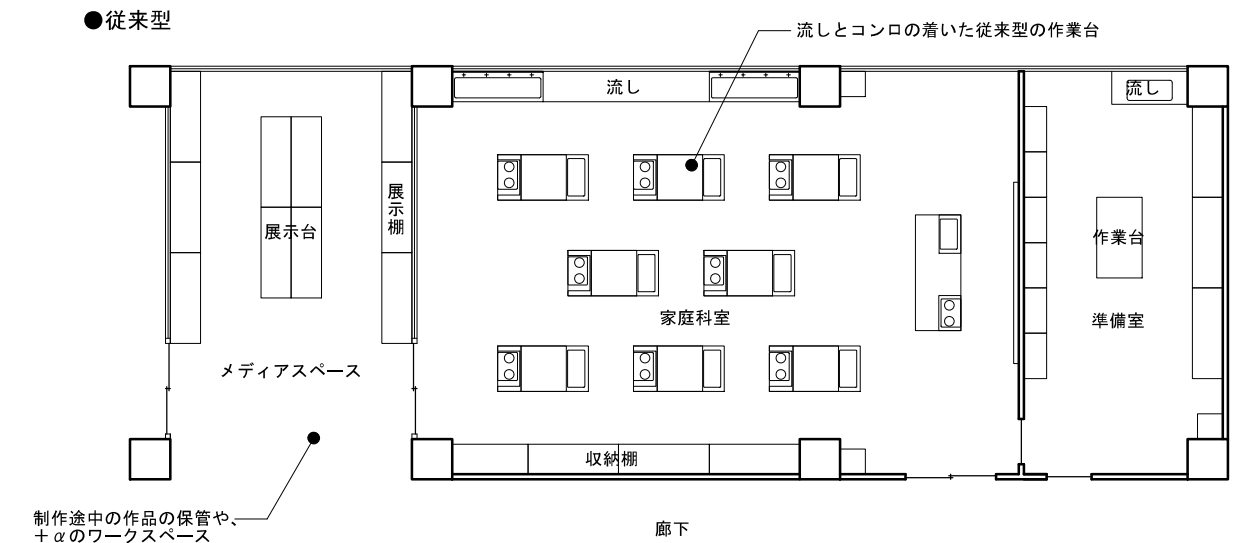


S: 1/150

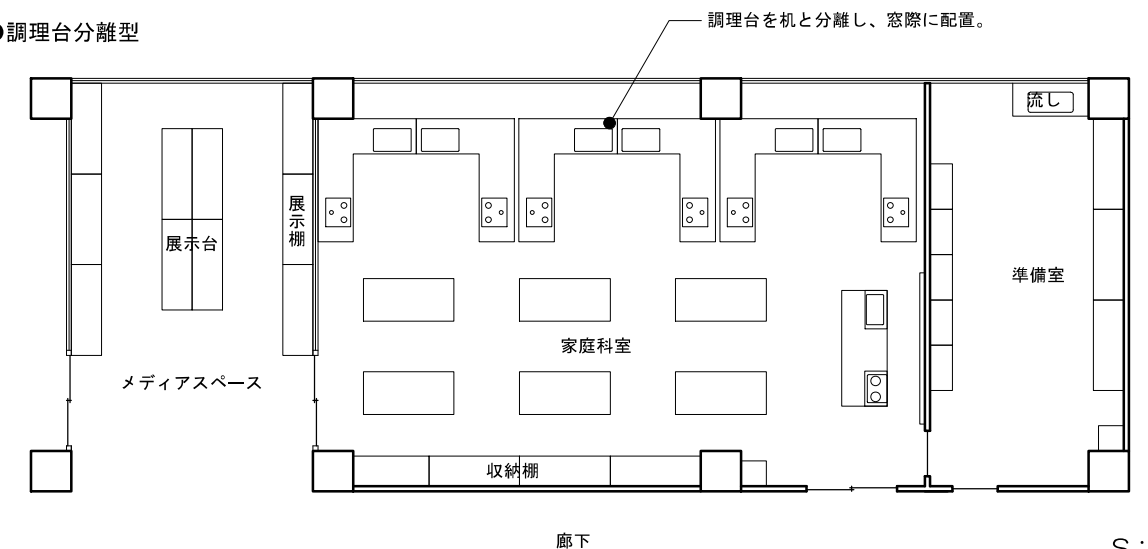
【ヒアリング、ワークショップでの主な意見】

- ・ 作業台は5人掛け8台がよい。
- ・ 家庭科室内に収納戸棚が必要。
- ・ ミシン20~40台の同時使用、ホットプレートや炊飯器等の使用に問題のない電源要領の確保が必要。
- ・ PTAや地域への開放に配慮し、地域のコミュニティの場となるような考えも必要。

- 基本的な考え方
- ・ 家庭科の魅力を十分に引き出す空間をつくる。
 - ・ 実践的・体験的な学習活動を通し、日常生活に必要な基礎的・基本的技能の習得が効果的かつ効率的に行うことができる空間とする。
 - ・ 学習内容の性質上、安全面には最大限に配慮した設えとする。
- 家庭科室
- ・ 5人掛けの作業台を8台設置する。
 - ・ 調理器具、食器等の収納スペース、制作中の作品等の保管スペースとして、適切な容量の収納戸棚を設ける。
 - ・ ミシンやホットプレート等の電気調理器具の利用に配慮し、十分な電気容量を確保する。
 - ・ ホットプレート等による調理に必要な電源を適切に設ける。
 - ・ 適切な耐衝撃性能を確保し、かつ掃除の行いやすい床仕上げとする。
 - ・ 適切な換気設備を確保し、通風にも配慮することが望ましい。
- 準備室
- ・ 必要な収納量等を検討し、適切な広さを確保する。
- その他
- ・ 地域への開放へも配慮することが望ましい。



●調理台分離型



S: 1/150

生活教室の考え方

【ヒアリング、ワークショップでの主な意見】

- 2教室分程度の広さが必要。
- 固定的な設えの無い、フリーなスペースが活用しやすい。
- 机や椅子は、低いもので容易に動かせるとよい。
- 簡単な工作や調理等で使える流しが必要。
- 床は掃除しやすいものがよい。
- ホットプレートやトースターのための電源があるとよい。
- 他の教科でも活用しやすい教室であるため、それを想定した設えとするとよい。

○基本的な考え方

- 低学年の児童が、具体的な活動や体験を充実するための「遊ぶ」、「製作する」、「交流する」など多様な学習活動が行えるフレキシブルな空間とする。
- 低学年を主体とし、他の教科でも活用できる多目的な室とする。

○配置

- 低学年ブロックに近い配置とする。

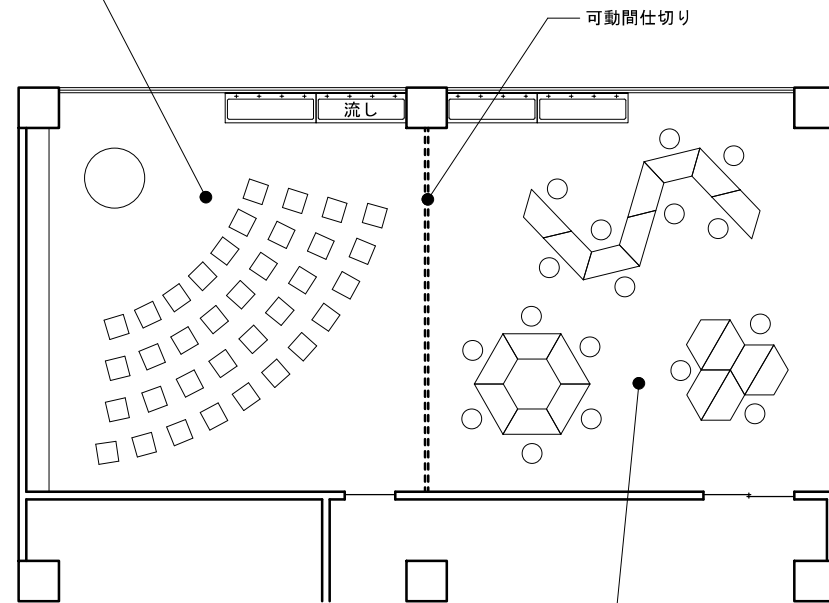
○室の規模、形状

- 標準型の普通教室2教室分程度の広さを確保し、固定的な設えのないフリーなスペースとする。

○家具、設備等

- 机や椅子等の家具は、低学年の身体寸法に合った、子どもでも容易に動かせる軽さのものとする。
- 適切な量の流しを設ける。
- 製作の活動等での利用を考慮し、床仕上げは日常の清掃が容易な、メンテナンス性に配慮したものとする。
- ホットプレート等による調理に必要な電源を適切に設ける。
- 音楽の授業でも使用可能な遮音性能を確保する。
- 部屋を分割して利用可能な可動間仕切りの設置を検討する。
- 授業で使用する様々な材料・教材・作品の保管、家具の収納等ができる準備室、あるいはそれに代わるスペースの設置を検討する。

音楽の授業でも使用可能な仕様



子どもと教師で自由な空間ができるフリーなスペースを基本とする。

S: 1/150

国際理解教室の考え方

【ヒアリング、ワークショップでの主な意見】

- 外国語活動専用教室があるといい。
- 外国語活動用教材を保管できる場所が必要。
- 机、椅子はあった方がよい。
- 机、椅子を寄せて、普通教室より広めのスペースが確保できるとよい。
- 総合的な学習の時間や社会科等でも共用できる。
- 外国語活動にスムーズに入っていけるよう、異文化の空間が感じられる設えが施せるとよい。

○基本的な考え方

- 外国語活動や社会科を中心に児童が異文化を体験しながら、その理解を深めることができる雰囲気をつくる。
- 講義的なスタイルの活動も、実習的なスタイルの活動も可能なフレキシブルな多目的空間とする。

○配置

- 中高学年ブロックに近い配置とする。

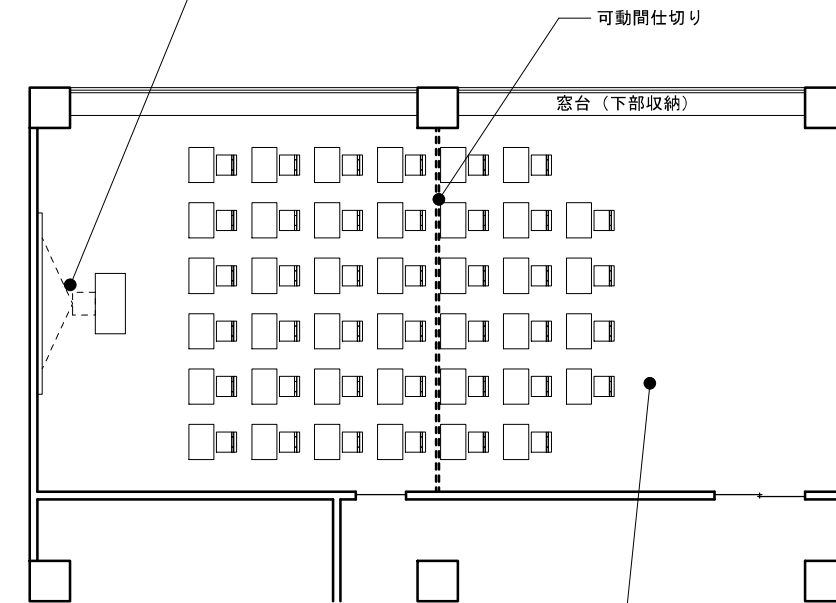
○室の規模、形状

- 標準型の普通教室2教室分程度の広さを確保し、固定的な設えのないフリーなスペースとする。

○家具、設備等

- 机、椅子は容易に可動なものとする。
- 部屋を分割して利用可能な可動間仕切りの設置を検討する。
- 授業で使用する様々な材料・教材・作品の保管、家具の収納等ができる準備室、あるいはそれに代わるスペースの設置を検討する。
- ホワイトボードやプロジェクタ、その他ICT機器の設置を検討する。

ホワイトボード
プロジェクタ



机を寄せれば、体を使った活動を行える広いスペースが確保できる広さ

S: 1/150

音楽室の考え方

【ヒアリング、ワークショップでの主な意見】

グループ練習ができる小部屋があるとよい。また、見通しがきくガラス張りが望ましい。

オープン型の普通教室の場合は、低学年が普通教室で音楽の授業ができないため、第2音楽室が欲しい。

楽器がチョークで汚れないように黒板ではなくホワイトボードがよい。

音楽室の黒板は横長がよい。

音楽室内に流しが必要。

○基本的な考え方

- ・ 音楽の魅力を引き出す環境をつくる。
- ・ 器楽や歌唱、鑑賞に相応しい適切な音響性能を確保する。

○音楽室

- ・ 鑑賞学習や講演会等にも対応した小ホールとしての使用も考慮し、適切な広さと設えとすることを検討する。
- ・ 音楽を楽しめる雰囲気の設定とする。
- ・ 近隣や他の教室へ配慮し適切な遮音性能を確保する。
- ・ プロジェクターや性能の良いスピーカーなど視聴覚設備を充実させる。
- ・ 十分な掲示面積を確保する。
- ・ 室内に手やりコーダー等を洗える流しを設ける。
- ・ 家具はメモ台付き椅子など、音楽活動を考慮した使い易いものとする。
- ・ 楽器庫と合わせ、十分な量の楽器保管スペースを設ける。
- ・ 横長の大型黒板やホワイトボードの設置を検討する。

○練習室

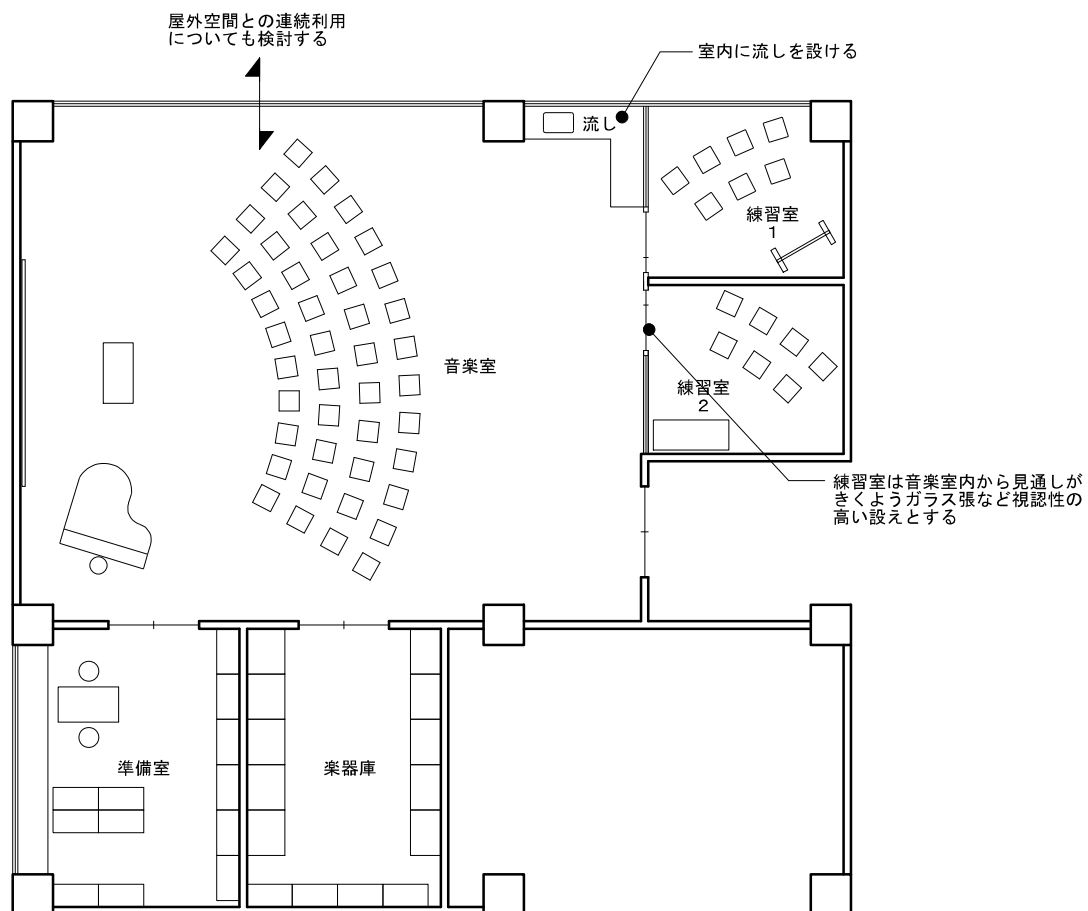
- ・ グループ練習等が行える適切な広さの練習室を2室設ける。
- ・ 音楽室内からの視認性に配慮する。
- ・ 適切な音響性能および遮音性能を確保する。

○準備室・楽器庫

- ・ 準備室と楽器庫を別々に設ける。
- ・ 楽器の種類別、数量、寸法等に留意し、充実した収納スペースを設ける。

○その他

- ・ 多目的室や屋外空間と一体的に利用できる施設計画も検討する。
- ・ 体育館や屋外への楽器の移動に配慮した室配置が望ましい。(1階への配置、あるいは体育館やエレベーターへの近接など)



参考プラン S: 1/150

メディアセンターの考え方

【ヒアリング、ワークショップでの主な意見】

- ・ 様々な教科で調べ学習が重要となるため、PC室と図書室が一体化していると便利である。
- ・ 普通教室と近い場所に配置されるとよい。
- ・ PC室というものの自体がいらぬのではないか。図書室の閲覧スペースにノートPCやタブレットを持ち込んで活用するような形式も有り得るのでは。
- ・ 授業以外で休み時間に本を読みに来るような児童への配慮(畳コーナーのような居心地のよいスペース)も必要。

○基本的な考え方

- ・ 図書室、PC室として別々に設置するのではなく、一体的なメディアセンターとして整備し、調べ学習等の多様な学習形態の受け皿とする。

○利用しやすさへの配慮

- ・ 日常的な利用のしやすさに配慮し、共用部と一体となったオープンタイプの室とする。
- ・ 学校の中心として把握しやすく、普通教室ゾーンからも気軽に訪れやすい位置に設けることを検討する。
- ・ 地域開放の可能性も視野に入れた配置を検討する。

○利用形式

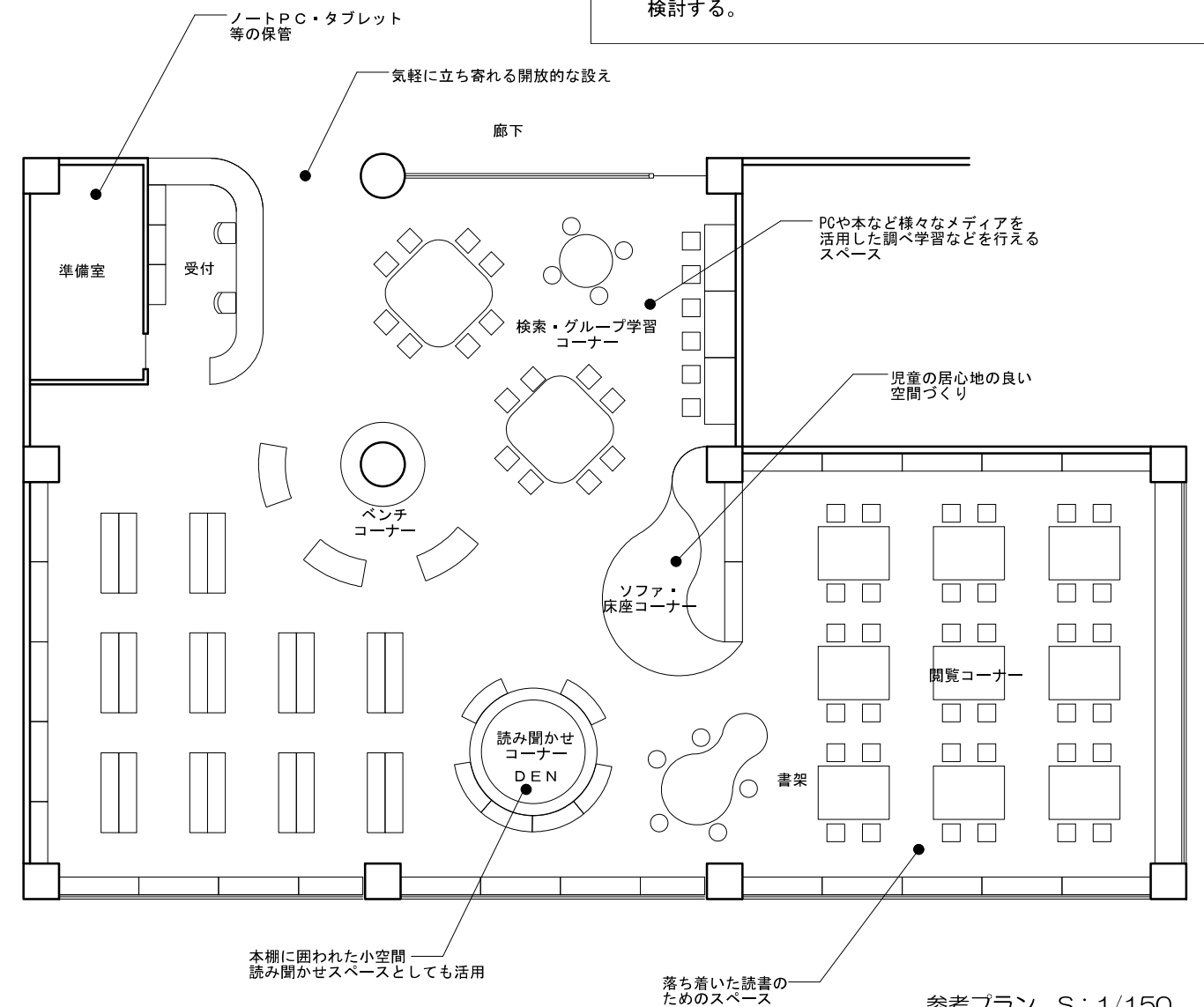
- ・ 固定式のデスクトップPCは設置せず、ノートPCやタブレットを貸し出す形式で使用するものとする。(全館無線LAN対応として、普通教室等へのメディアの貸し出しも可能とするのが望ましい。)

○滞在したくなる魅力的な空間づくり

- ・ 授業時間以外でも児童たちの積極的な利用を促すため、滞在したくなるような魅力的で落ち着いた空間づくりを目指す。
- ・ 様々な過ごしができるよう、本棚等に囲まれた場所、開放的な場所、椅子での読書、ソファや床座など、多様なコーナーを計画する。
- ・ 木などの自然素材を多用した温かな空間とする。

○ICT環境

- ・ 国の「学びのイノベーション事業」及び「フューチャースクール推進事業」等の動向を踏まえ、充実したICT環境の導入を検討する。



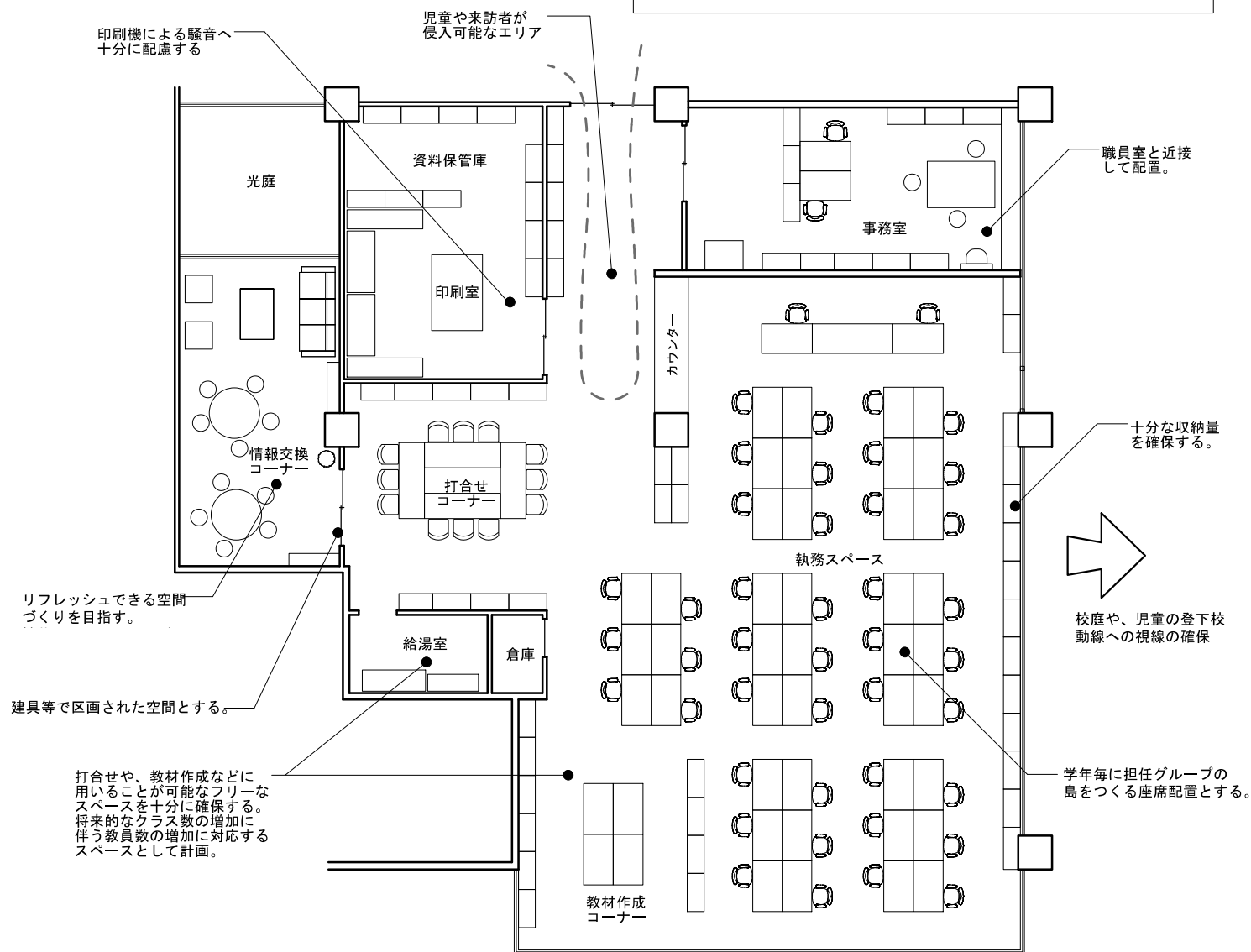
参考プラン S: 1/150

職員室の考え方

【ヒアリング、ワークショップでの主な意見】

- 職員室、教室のそれぞれに十分な収納スペースが必要。
- 職員室の座席配置が学年毎の島になっていることで学年会などのミーティングが開きやすくなる。職員室で行うことで、他学年との情報交換ができるというメリットがある。
- 職員室では作成等の作業をする場が限られているため、学年ユニット内に教師コーナーがあると便利。
- 執務スペース以外にミーティング等ができるスペースがあるとよい。
- 保健室は職員室と隣接させて欲しい。
- 職員が保護者や児童の目を気にせず飲食をしたり休憩したりできるスペースが必要。
- 学年間の情報交換等、教員同士のコミュニケーションが盛んになるような場が必要。

- 基本的な考え方
- 教員にとって働きやすく、また同時にリフレッシュできる空間とする。
 - 児童や来訪者が訪れやすい開放的な雰囲気をつくり、教員が身近に感じられる職員室づくりを目指す。
- 執務機能の向上
- 執務のための適切なスペースや収納量の確保、ICT環境の整備を図るものとする。
 - 学年毎の担当教員のグループをつくる島状の配置とし、日常的なコミュニケーションの誘発による情報交換を促進する。
 - 不足しがちなグループでの打合せや、教材作成のためのスペースを確保する。
- 配置、他の管理諸室との連携
- 校長室や保健室との連携に配慮した配置とする。
 - 屋外運動場、児童の通学動線、昇降口付近の見通しを確保する。
- リフレッシュのための空間
- 教員が休憩してリフレッシュできる空間として教員ラウンジを設ける。
 - 執務中の教員や来訪者の視線を気にせず休憩できる配置とする。（場合によっては職員室と離れた場所に設置することも検討する。）



理科室まわりの考え方

【ヒアリング、ワークショップでの主な意見】

- 実験等で理科室を使うのは高学年で各学年30~40時間/年。4年生では理科室の使い方を学ぶ単元や顕微鏡を使用する実験で理科室を使う。
- 普通教室で行える実験やグループ学習であっても本当は教科教室型のスタイルで出来る限り理科室を使える方が望ましい。
⇒理科室2室設置の検討
- 単元や実験内容により実験台が固定された理科室よりも広いスペースが必要になることがある。理科室内にそのようなスペースがあったり、あるいは実験台を動かしてスペースをつくれたり、近接した場所にオープンスペースがあると使いやすい。
⇒実験台のコの字配置、可動式実験台、メディアスペース、多目的ホールとの隣接など、利用の幅を広げ、より高度な理科教育を実践できる場を形成することを検討。
- 黒板は横長の方が良い。また、黒板の脇に資料掲示用設備があると良い。
- 実験台の高さは68cmでは低い。
- 電子顕微鏡、2人で1台使用のための電気容量の確保が必要。

○理科室の基本的な考え方

- 理科教育推進への貢献を目標とし、理科ゾーンとして理科学習活動に必要な様々な機能を集約配置する。
- 使用目的に応じ設えの異なる理科室を2室設置することを検討し、積極的な理科室利用の向上を図る。

○理科室1

- 実験主体の室として、ガス水道付きの8人用実験台を5台並べた従来型の理科室とする。
- 児童用実験台はコの字配置とし、教員用実験台の前のスペースは空け、演示実験等に活用できる空間を設ける。
- 適切な容量の実験器具等の収納スペースを確保する。

○理科室2

- 理科室1よりもフレキシブルな学習展開が可能となる室として、水廻りを窓側に配置すると共に、可動式実験台によりオープンスペースを生み出せる計画とする。
または、
半円型の実験台を用い、児童が全員教員側を向く講義型の教室とする。
- 理科室2は多目的ホールと隣接した配置を検討する。
理科室2-多目的ホール間の間仕切りは、スライディングウォールによるものとし、一体的な利用が可能な設えとする。(より広いスペースを必要とした実験での活用や研究授業や教員研修、理科教育研究会、イベント等の開催時の利用を想定。)

○理科メディアスペース

- 理科室前の廊下に面した部分には理科メディアスペースを設け、理科授業時以外にも児童へ理科の魅力を伝える空間として活用する。
- 理科に関連する図書等のメディア、模型や標本等の展示物の充実を図る。
- 調べ学習の発表の場となるよう十分な掲示面を設ける。
- 学習展開により理科室から連続して実験等で利用できる空間とする。

○実験テラス

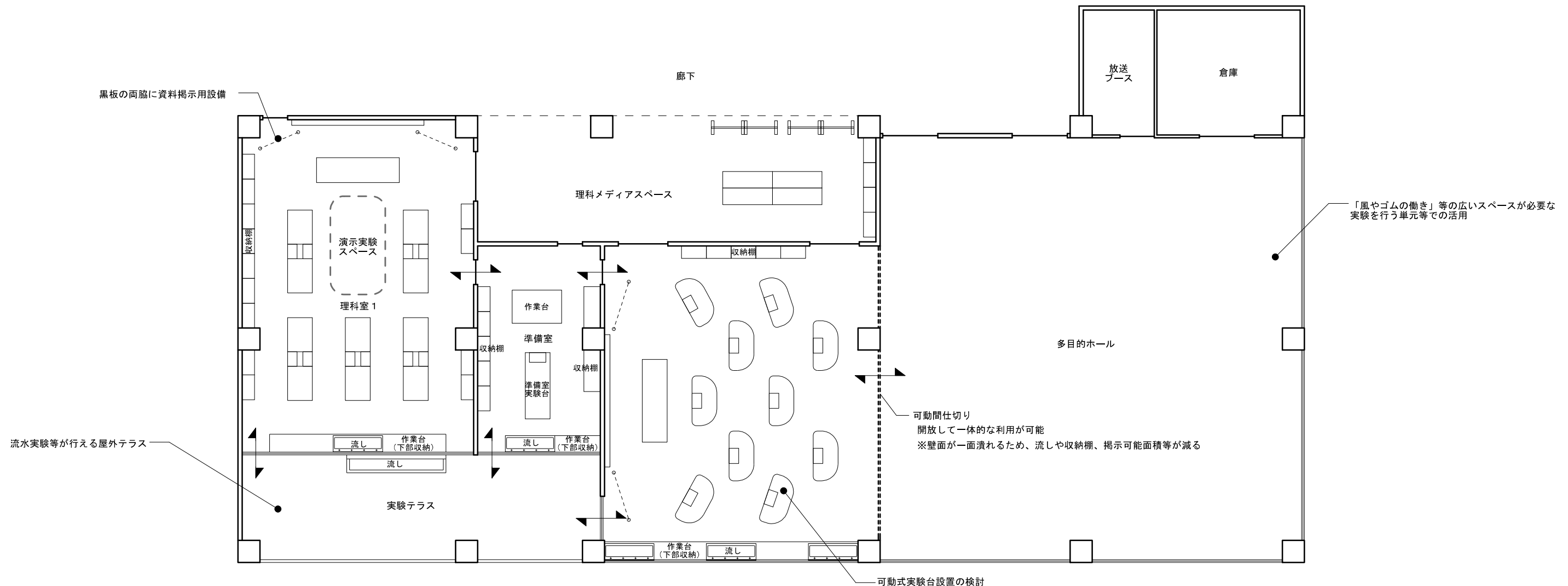
- 理科室と連続して屋外での実験等が可能なテラスの設置を検討する。
- 必要な広さ、必要な設備、日当たり、庇の有無
- 観察園や菜園等との連携による屋外からのアクセスも検討する。

○準備室

- 理科室2室用の準備室として適切な広さを確保する。

○その他の設え

- 安全な耐衝撃性能を確保し、かつ掃除が行いやすく、水に濡れても滑り難い床仕上げとする。
- 薬品の気化に留意し、十分な換気、排気設備を確保するとともに、通風に配慮する。
- 学習環境に適した安定した光環境を確保すると共に、用意に暗転できる設えとする。
- I C T環境の充実や、黒板脇の資料掲示設備等に配慮する。
- 実験台の高さは児童の身体寸法を考慮した実験しやすい高さとする。また、教師用実験台に関しては児童からの見やすさに配慮すること。



普通教室まわりの考え方

● 学習面、生活面において多様な活動を可能にする環境づくり

- ー シンプルでフレキシビリティに優れた空間とする。
- ー 多様な学習活動を展開する上で、十分な広さの普通教室面積を確保する。
- ー 普通教室と一体的な利用が可能な多目的スペースを配置する。
- ー 少人数学習、習熟度別学習、個別学習等の様々な授業展開に対応可能な空間とする。
- ー 教員のためのコーナーを配置する。

- ・ 2クラス1ユニット単位を基本とし、クラスや学年の実態に合わせ、教員や児童が自由に可変できる空間計画を行う。
- ・ クラス数の変動に伴う学年配置変更にも対応できる設えとする。
- ・ 児童の体躯の発達、新JIS規格による机・椅子の大型化に合わせた十分な普通教室の面積を確保する。
- ・ 多目的スペースは、学年集会や多様な学習活動、休み時間の児童交流などの活用に十分な広さとまとまりのある空間を設ける。
- ・ 普通教室は、可動式間仕切りなどにより、単独で使用することも、多目的スペースと一体的な使用もできる設えとする。
- ・ 多目的スペースには、大型テーブルやパーティションなど学習活動の規模に応じた使い方のできる可動式の家具を設置する。
- ・ 普通教室ユニットに近接し学習室を設置することとし、更衣室との兼用も検討する。
- ・ 多目的スペース内に、学年ミーティングや教材作成も可能な教師コーナーの設置を検討する。
- ・ 教員の目が児童に行き届くよう配慮すると共に、児童と教員のコミュニケーションが誘発されるような形状の工夫を行う。

● 児童が安心して気持ちよく生活できる空間づくり

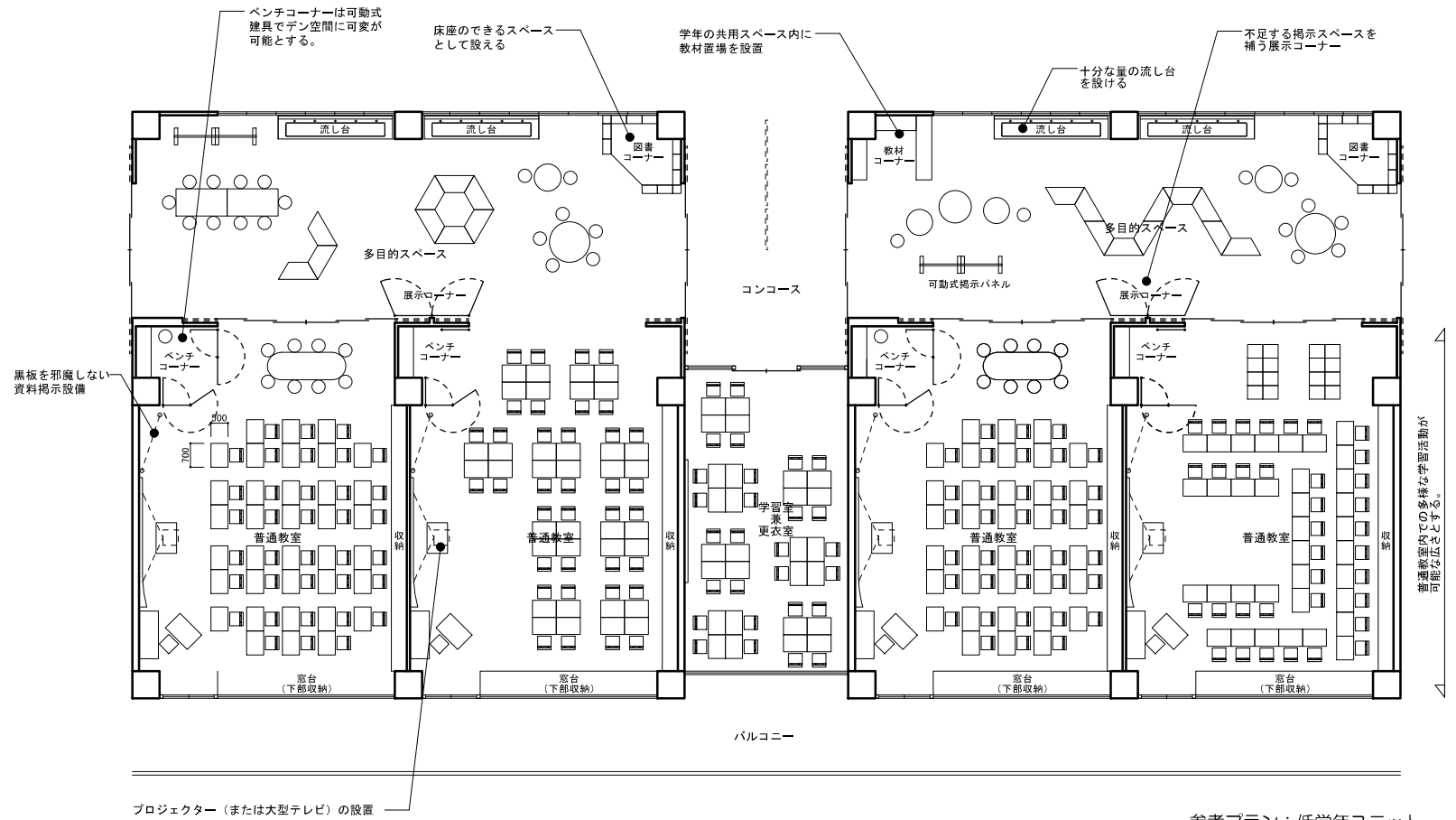
- ー 児童のスケール感に合った空間づくりを行う。
- ー 児童の様々な居場所をつくる。

- ・ 多目的スペースは、学年が集まれる広さの空間とする一方で、児童にとって過大な空間とならないよう配慮する。
- ・ 「デン」、「図書コーナー」、「ベンチ・ソファコーナー」、「床座コーナー」、「アルコーブ」など児童の身体スケールに合った居心地の良い空間を様々なコーナーとして設ける。児童の発達段階や学年の実態に応じた空間づくりができるよう、家具等による可変的な設えとするのが望ましい。
- ・ 低学年ユニットでは「デン」を普通教室内に設置することを検討する。
- ・ 自然素材を主体とした児童に優しい仕上げとし、内装木質化を検討する。

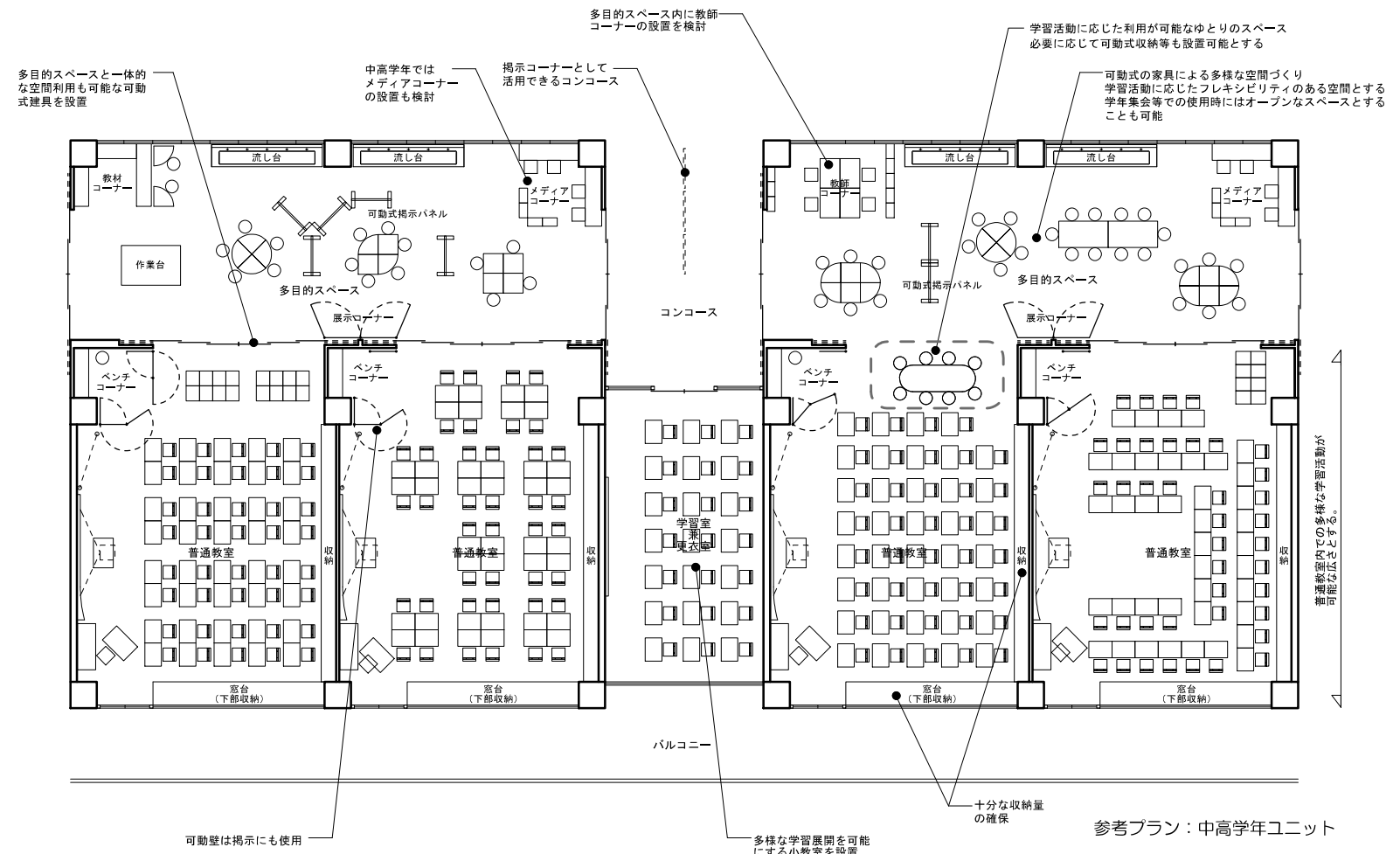
● 快適な学習・生活環境づくり

- ー 安全性や衛生面に十分な配慮を行う。
- ー 学習環境として適切な音環境を確保する。
- ー 学習環境として適切な光環境を確保する。
- ー 学習環境を阻害しない適切な量の収納スペースを確保する。
- ー 学習活動をサポートする設備を導入する。

- ・ 鋭利な凹凸のない空間とする。
- ・ 適度に弾力性があり、柔らかな手触りや温かみのある素材を用いる。
- ・ 衛生面に配慮し、カーペット等の全面的な使用は控える。
- ・ 学年ユニット内には十分な量の流しを設ける。普通教室からの距離、位置関係に配慮する。
- ・ オープン利用が可能な空間として、吸音性能や遮音性能に十分な配慮を行う。
- ・ 自然採光を有効に活用できる計画とし、照明エネルギー削減に努める。
- ・ 児童の持ち物用の収納スペースを適切に確保する。
- ・ 多目的スペース内に適切な広さの教材コーナーを設ける。
- ・ 学年ユニット内には無線LAN環境を構築することを検討し、ノートPCやタブレット活用の自由度を高める。
- ・ 図書コーナーに近接して、児童が自由に使えるPCやタブレットを設置する。
- ・ 黒板が隠れない位置に授業時に使用できる資料掲示用の設備を設置する。
- ・ 展示等が行える十分な壁面、スペースを確保するものとする。折畳んで収納できる壁を設置する等の工夫を行う。
- ・ プロジェクターや大型テレビの導入を検討する。



参考プラン：低学年ユニット



参考プラン：中・高学年ユニット